

遊具周りの特殊舗装提案



二層タイプの弾性舗装「ウレタンパーソフトセーフティ」

NIPPO

NIPPOが開発した遊具周りの高弾性ゴム舗装「ウレタンパーソフトセーフティ」への引き合いが増えている。「ただ柔らかいだけでなく、明確な基準をクリアした信頼ある安全性」（同社）が最大の売りだ。商品化から約半年だが、既に公園で数件の適用実績を持つ。幼稚園事業者や公園管理者からの問い合わせも相次いでおり、全国的に提案営業を強化していく。

おもちゃまな危険が潜む子ども遊び場。重大事故が多いのが、遊具から転落した際に

頭部を強打する事故だ。

国土交通省の指針（200

8年8月）では、衝撃吸収素

材の敷設を推奨。性能評価に

当たっては、落下時の最大加

速度（Gmax）と頭部障害

値（HIC）を計測すること

が望ましいとしているが、具

体的な数値は定めていない。

一般的には、「Gmaxが

200以下」「HICが10

00以下」であれば、脳に深

刻なダメージを与えないとさ

れている。そこで同社は、1

回で両方の数値を測定できる

米国製の測定器を購入。遊具

の高さや落下時の速度に応じ

て、最適な厚みで設計・施工

できる技術を確認した。

ウレタンパーソフトセーフ

ティは、20〜110ミリの再

生黒ゴムチップ（衝撃吸収層）

の上に、10ミリの耐久性高強

度カラーゴムチップを敷きな

らした二層タイプの弾性舗

装。現場施工型のため、さま

ざまな遊具の形状に合わせ、

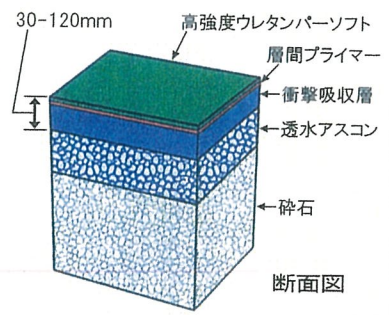
隙間なく敷設することができ

る。施工後の養生も不要で、

1つの遊具周りであれば1日

程度で工事は終わるといっ

つ。衝撃吸収層の厚さは、自由



に変えられる。例えばGmax、HICがともに、上限を超えない最大落下高さ（臨界高さ）が1・4歳であれば厚さ50ミ、2・2歳なら80ミリの敷設で基準をクリアできるといったように、遊具ごとに舗装断面厚を決定する。

また、透水性があり、降雨

後も水たまりができない。耐

久性も高く、ほぼメンテナンス

フリーだといっ。一般的な

ゴムマットのように、ずれた

り、膨れたりする心配もない。

さらに、カラーバリエーショ

ンも豊富だ。緑、赤、茶、ベ

ージュの基本4色と、それら

に黒を組み合わせた計8色を

取りそろえている。

同社は明確な基準に基づい

て、確かな安全を強みに、幼

稚園や公園のほか、大規模ショッ

ピングセンター内の子ども向

け広場などにも、導入を働き

かけていく方針だ。

転落時の頭部衝撃吸収